

※KPI…Key Performance Indicatorの略。政策ごとの達成すべき成果目標として設定するもの									
事業名	事業の背景	事業の概要	事業効果	KPI※	目標値 (計画期間累計)	平成29年度			平成30年度の取組状況 (事業内容、年度途中の実績など)
						単年度目標	実績	事業費(円)	
美里の未来を見つけます事業 (三み一体事業)	津市は、平成18年1月1日に10市町村が合併を行っているが、合併した旧市町村の一つである旧美里村を範囲とする美里地域は、江戸時代、伊賀街道の重要な宿場として栄えてきた歴史があり、今もお数多くの歴史的資産が存在する。また、当該地域は、標高819メートルの経ヶ峰のふもとにある中山間地で、清流長野川が走る、豊かな自然が残る地域である。そしてそのような環境で育んできた、人と人との繋がりが強いコミュニティがいくつか形成されている。 しかしながら、地域の人口は、平成28年12月現在で約3,600人となり、平成18年以後約10年間で約13%減少しており、児童数も10%減少し、高齢化率は37%を超えている。これに伴い地域住民の生活を支える機能が失われつつあり、地域における雇用の創出・拡大も難しく、利用者数の減少による公共交通の減便や空き家の増加に加え、これまで維持されてきた地域コミュニティの衰退が危惧されている。このようななか、現状打破に向けた具体的な取組を進めたいとの意欲が高まっており、地域が主体となった具体的な事業展開の支援が、まさに求められている状況である。 このことから、地域が有する資源を生かしながら、地域のコミュニティが将来にわたって継承され、こどもから大人まで地域一丸となって地域づくりに取り組み、地域の人々がいきいきと暮らし、観光客などの交流人口の増加により賑わいがある姿を目指す。	平成29年度から地域内3小学校と1中学校を統合する義務教育学校「みさとの丘学園」を開校し新たな教育実践に取り組むこととしているが、閉校する3小学校区では、それぞれ人と人の繋がりが強く、地域の未来に向けた取組を進めたいという意欲を持つコミュニティが形成されている。 そこで、閉校となる各小学校を活用し、それぞれの地域の特色に応じたマルシェや収穫祭、定期的なスポーツ大会などのイベントの開催を土台として、人口減少にあっても衰退しないさらに強い地域コミュニティと地域の拠点を形成するとともに、地域の食材の活用、販路や交流人口の拡大を図る。 ◆人口減少にあっても衰退しない地域コミュニティと拠点の形成 マルシェ 収穫祭 スポーツ大会 など 閉校する3小学校の活用	◆平成29年3月に閉校となった小学校3校の各小学校区において学校利活用のための協議会組織(長野地域まちおこし協議会、高宮ふるさと協議会、辰水元気づくり協議会)を立ち上げ、交流人口や地域の特産物の販路拡大に向けて、当該協議会がそれぞれの地域の特色に応じたキックオフイベントを開催し、多くの地域関係者の協力の下、多数の来場をいただき、活動の認知度向上と交流人口の拡大を図ることができた。 ○平成29年度事業での参加者数(スタッフ含む) 長野…学校マルシェ 約6,000人 お笑いカフェ 約150人 高宮…ふるさとフェスタ 約600人 辰水…たつみずフェスタ 約600人 ほろ酔いコンサート 約500人 3地区の施設利用者 約3,500人 ※体育館・グラウンド利用者(延べ数) ◆各協議会においては、地区内の広報誌の発行や自治会等の既存組織との密な情報共有、積極的な参加人材の受入れを行い、今後の活動の基盤を構築するとともに、活動の輪の拡大を図ることができた。 ◆美里地域全体としての地域活性化に向け、三協議会と市による協議会組織「みさっと」を設立し、各協議会間の情報共有や意見交換を行い、連携強化に努めた。 みさっと 長野地域協議会まちおこし 高宮ふるさと協議会 辰水元気づくり協議会 (美里総合支所)津市 ◆旧小学校施設の利活用については、持続可能な活動となるよう、行政が施設管理を行い、施設の運用や具体的な事業実施を協議会が担うことで協議会の負担軽減を図るとともに、活動の幅を広げ、自由度を高めるため、行政からの要請は注意事項等、最小限にとどめることで、各地区の特色を活かした独自性のあるイベントの開催に繋げることができた。 ◆活動の継続に必要な不可欠な自己資金の確保に向けては、具体的な検討を進めるなかで、各自治会からの協力金の呼びかけやイベント等における収益向上の取組により、初年度から各地区概ね25万円以上の資金を確保することができた。 ◆平成29年度については、KPIの単年度目標値を達成、または大きく上回る実績となり、地域コミュニティの強化や交流人口の拡大が図られた。	各小学校区で地域づくりに携わる地域の方々の人数の総計	260人	40人	40人	【平成30年度の取組について】 ◆長野地区では、昨年度に引き続きイベントの開催を行っていることと合わせ、「ドローン教室」など、外部団体からの会場利用の依頼を受け、当該団体との共催事業なども展開しており、施設の利用の幅の拡大や地域内のみならず地域外からの施設利用者増に向けた取組を進めている。 ◆辰水地区では、「放課後子ども教室」や、「地域のみなさんを対象としたカフェ」の開催など、イベント以外での新たな活用も出てきている。 ◆高宮地区では、津市との協力により「校舎を倉庫として利用する取組」を開始するとともに、秋のイベントにおける給食棟を利用した事業の具体化に向け、検討を進めている。	
				各小学校区での取り組みを通じて創出する地域外からの集客数: 360人 ※計画期間(5年)合計	360人	100人	4,800人		
				イベントにおける年間集客数: 1,100人 ※計画期間(5年)合計	1,100人	600人	11,350人		
委員からの意見				検証結果					
・イベントの集客や美里地域を訪れたいと思う人を増やすため、チラシだけでなく、実際に参加者が体験している動画をSNS等を通じて発信していくことなどが効果的。そのためには、その動画を見た人が面白そうと思えるような企画を考える必要がある。 ・単発イベントではなく、例えば、美里地域の立地を生かし、老人ホームを誘致して家庭菜園で採れたものをイベントで販売したり、都市部ではできない、楽器やダンスの練習ができる合宿所として施設を活用するなど、持続可能なものとして考えていく必要がある。 ・地域の実情に合って、きちんと有効活用ができるということが重要。定常的に人が訪れ、採算が取れる方法を考える必要がある。 ・地域外の人や幅広い年齢層の人からも広く意見を募り、津市全体として考えていくことが重要。 ・続けてやっていくためには、経済的に成り立ち、そこだけである程度完結するものでなければ難しく、民間事業者も参入しにくい。 ・持続可能なものとしていくためには、事業を通じて働く場が創出されるものであることが重要。 ・地域の人たちが自分たちの問題として捉え、考えることが最も重要。活動の火を絶やすことなく、イベントを通じて地域の結束を強める取組は続けながら、事業の持続性についても検討を進められたい。				KPIについては、目標値をすべて上回り、計画期間1年目の成果としては順調なものと言えるが、自主運営という部分では道筋がつけられておらず、事業の継続性が課題となる。行政主導ではなく、地域の中から起こった問題意識や活動の火を絶やさぬよう、各種イベントを通じた地域コミュニティの維持・強化には継続的に取り組みつつ、残りの計画期間において、地域外の方や若者など、幅広く意見を取り入れながら、事業の持続可能性についての議論を深め、各地域における個性や歴史的背景を尊重しながら、地域に最も適した事業の形について検討を進める。					